

秀 賞



「私の挑戦」

新潟県佐渡市立金井中学校

三年 寺 田 綺 良

「ここ、女子トイレですよ。」私がトイレに入ろうとすると、よく言われる言葉です。

「息子さん、大きくなりましたね。」これは、親の知り合いと会ったときなどに、言われる言葉です。でも、私は男子ではありません。れっきとした女子です。このように言われるのは、髪は刈り上げ、私服は男っぽいという、私の外見に原因があるのかもしれない。しかし、部活のユニフォームを着ているときに言われると、(やっぱり女のやるスポーツだとは思われていないんだ...)と感じます。

私のやっているスポーツは、野球です。男子と間違えられたとき、「一応、女です。野球やっています。」と答えますが、「へえ、女の子で野球、すごいね〜」などと言われます。正直、私は、「女で野球をすることがすごい」と言われると、意味が分かりません。バレーボール・バスケットボール・卓球、そしてサッカー：これらを女子がやっっている「すごいね」なんて言われません。野球だと「すごいね」と言われるのは、女子野球がまだ世間に浸透していないからだと思います。先ほど例に挙げたスポーツは、多くの中学校・高等学校で、部活動として行われています。誰もが、興味関心をもてば、

自由に参加できるようになっています。けれども、野球はちよつと違います。

中学校では、野球部に入って男子と一緒にやるか、クラブチームに入るしかありません。高校では、男子と一緒に練習を続けることはできません。公式試合には出場できません。野球を続けたいけれども、あきらめてマネージャーとして入部する人も多くいます。高校女子の硬式野球部は、十年前の五チームから、いまでは連合チームを含めて三十二チームまで増加しました。と、いつても、全国でたったそれだけ。県内には一校で、自宅から通うこともできません。今のままでは、ずっと続けていくことが難しいのが現状です。

女子が野球を始めるきっかけは、他のスポーツと同じです。かっこよくて私もやりたい、兄弟がやっていた、親がやっていた…。

私は、兄がやっていて、自然と野球を選んだという感じ。私の所属した学童野球のチームでは、私が最初の女子選手だったそうです。中学に入学してから、ためらうことなく野球部に入部し、男子と一緒に練習し、大会にも参加してきました。

昨年・今年と、県選抜の女子中学生野球チームのメンバーにも選ばれました。昨年は全国ベスト8まで進み、今年はそれ以上の成績を目指して練習に励んでいます。しかし、野球をやるためには、大勢の方の協力が必要でした。学童野球では、遠征のたびに一人部屋を準備してもらい、男子がシャトルバスの中で着替えているときに、指導者の方に近くの体育館トイレまで連れて行って着替えなければなりません。女子野球がメジャーでないため、地域選抜がなく、県選抜の練習会場は遠い長岡市です。親にレンタカーを使って送り迎えをしてもらわなければなりません。私に野球の魅力を気付か

せ、一緒に練習してくれたり指導してくれたりした兄をはじめ、多くの人の支えの中で、小学生からこれまで、とても充実した野球人生を送ることができました。

私にとつての野球の魅力は、試合への出場機会がたくさんあることです。打つことが苦手でも走りが速ければ代走で、守備が苦手でも打撃がうまくれば代打でと、自分の得意なことでもチームに貢献できます。その魅力を、他の人にも味わってもらいたい。

あとから聞いた話ですが、私が学童野球をやっているのを見て、佐渡でも野球を始めたという女の子が何人かいるそうです。県選抜についても、私が思いっきりプレーすることで、女の子にも野球の魅力に気付いてもらいたいです。そして、佐渡から私に続く選手が出てくることを期待しています。

今年、高校野球新潟県大会の開会式では、糸魚川高校の女子部員、永野さんが入場行進の先頭を務めました。そして、後輩の女子部員が一人いることを知りました。高校で続ける人が少しずつ増えていきます。国内にも女子野球チームが増え、世界に目を向けると、女子野球世界大会やワールドカップ女子野球も開催されています。確実に、女子がプレーできる環境が整ってきているのです。

今、私の夢は、女子が野球をすることが当たり前の世界になること、性別に関係なく、誰もが魅力あるスポーツに自然に取り組める世界になることです。女子が野球をすることがすごい？ そうではなくて、そのスポーツに魅力を感じ、精いっぱい取り組むことがすごいのだと、誰もが思える世界になることです。その夢に向け、私はこれからも全力でボールを投げ、打ち、走っていきます。